

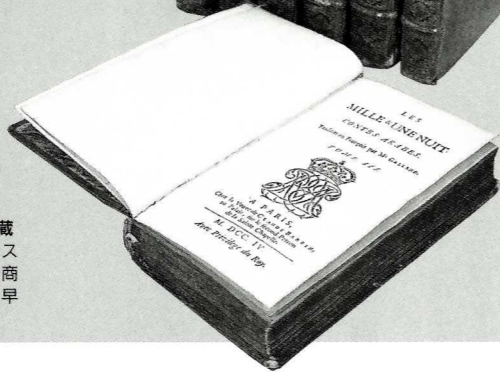
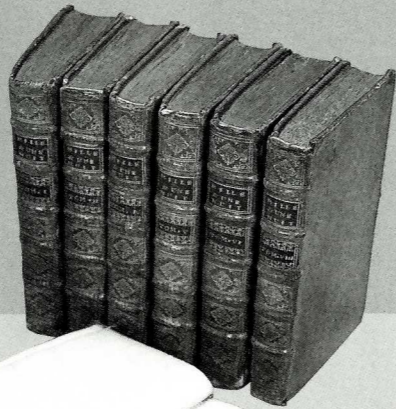


チャップブック  
『シンドバード』『アラジン』『アリババ』  
19世紀初め グラスゴー 民博所蔵  
チャップブックとは民衆向けの廉価本の  
ことで、チャップマンとよばれる行商人が  
村々を回って売り歩いた。文字だけのもの  
から複雑な挿絵の入ったものまであった

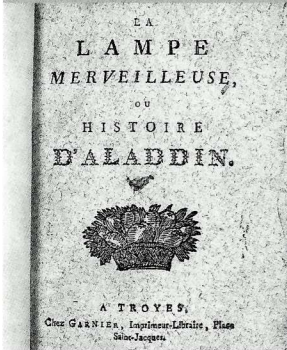


パリの古書店アベンセラーージュの主人。フ  
ランスで出版されたアラビアンナイトを収  
集しており、わたしの最大のライバル

『千一夜』A・ガラン訳  
1704～1717年パリ 個人蔵  
ガラン版『千一夜』の初版本。貴婦人方が、  
「ガラン様、はやくお続きを！」と催促  
するほどの大ベストセラーとなった



『不思議なランプ、  
あるいはアラジンの物語』  
1760年ごろ トロワ(フランス) 民博所蔵  
「青本」とよばれる民衆本。とくにフランス  
中部のトロワでは青本印刷が盛んで、行商  
人が売り歩いた。アラジンやアリババは早  
くから人気のある定番の題材となった



## 民博 アラビアンナイト・コレクション

西尾 哲夫  
(にしお てつお)

本館民族社会研究部

地球を  
集める



民博で開催した  
「アラビアンナイト大博覧会」



フランス

### 世界的ベストセラー

アラビアンナイトの題名のもとに世界中で親しまれている物語集が成立したのは、今から一〇〇〇年ほど前のバグダッドだった。日本でいうと平安時代にあたる。この当時、すでに中国から中東に紙が伝わっており、バグダッドでは大量の紙が流通していた。羊皮紙の場合、一冊の本を作るには何頭ものヒツジが必要だったが、紙は比較的安価に大量生産することができた。アラビアンナイトの冒頭部分が記された紙の断片が残っており、これは九世紀のものであることがわかっている。

ただし、当時の中東では今のような出版業があつたわけではない。本はすべて手で書き写されていた。個人で本を買うという事はあまりなく、本は公共や私立の図書館に収められていた。また貸本屋の数も多く、代金を払って蔵書を読むこともできた。当時の代表的な文学者であつたジャヤーヒスは、読書好きが高すぎるあまりに貸本屋をまるごと借りきつたといわれている。彼は棚から崩れてきた本の下敷きになって死んだという話も伝わっているのだが、こちらは事実ではなくて伝説だろう。

アラビアンナイトは生まれ故郷の中東ではしだいに忘れられていったのだが、一七世紀フランスの東洋学者アントワーヌ・ガランが、一五世紀ごろに書かれたと思われるアラビア語の古写本をたまたま入手してヨーロッパ世界に翻訳紹介した。一七

それが専門の分野をもっている。古書店は詳しいカタログを出しているところが多く、客はこのカタログをチェックしてあての本を探すわけだ。ガラン訳アラビアンナイトは全部で一二巻が出版されており、当然ながらこちらとしては一二巻すべてを手に入れたい。ガラン訳アラビアンナイトは当時のベストセラーだったし、その後も版を重ねており、現在でもフランスの子どもの愛読書になっている。これほどの有名な全集なのだから、一二巻セットは専門の古書店なら必ずもっているはずだ。

### パリの古書店で収集

だが、この予測は甘かった。どこの古書店も一二巻セットはもっていないのだ(ちなみにパリ国立図書館にも欠本があり、世界のどの図書館も完本を所蔵していない)。それでも一二巻のうち、一〇巻まではもっているという古書店を見つけ出し、何回か足を運ぶうちに主人と少し親しくなった。さらに何回か通うと、今度はコーヒーを出してもらえぬくらいにはなった。こういう買い物では、インターネットでボタンをクリックしたり、スーパーマーケットで欲しいものをカゴに入れたりするようなわけにはいかない。商談がはじまるのは、ある程度の信頼関係が築かれてからなのだ。

コーヒーを出してもらったところで、おもむくにガランのアラビアンナイトの話

〇四年のことだ。ガランが訳したアラビアンナイトはヨーロッパの人びとが知らなかった空想の世界をえがいていたから、あつという間にベストセラーになり、英語やドイツ語をはじめとするヨーロッパ各国語に次々と翻訳されていった。こうして中東で成立した空想物語集であつたアラビアンナイトは、ガランの翻訳をおして世界文学へと生まれ変わっていく。日本には明治時代に紹介され、今ではディズニーの映画などをとおして、読んだことはなくとも名前くらいなら誰もが聞いたことがあるはずだ。

### 初版本一二巻を求めて

アラビアンナイトがヨーロッパで紹介されてから三〇〇年後の二〇〇四年、民博では「アラビアンナイト大博覧会」を開催した。この博覧会に展示するため、ヨーロッパ各地からさまざまなアラビアンナイト本を集めることになった。ヨーロッパ最初のアラビアンナイトであり、文化史上で大きな役割を果たすことになったガラン訳の初版本は、何としても手に入れたかった。

アメリカやヨーロッパでは特定の古書を情熱的に収集している人が多い。めずらしいものになると、一冊数百万円、はては数千円などという古書もあり、愛書家をめぐったミステリーなども書かれている。パリには数多くの古書店があり、それ

をきりだした。主人にしても、こちらの目的はどうに見当がついている。主人が答えるには、確かにガランのアラビアンナイトはもっている、もっているが全巻がそろうまでは売らない、客にも見せないと言つた。表情はにこやかだが絶対に売る気はなさそうだった。それでもいろいろとねばるうちに、「あそこならもっているかも」という同業者を紹介してもらった。

さっそく、その店に行つてガランの話を引きだした。同業者の名をもち出されて主人がそわそわはじめた。やがて部屋のなかをうろつる歩きまわり、とうとう意を決したように奥の部屋に入っていく。戻ってきた主人の手には七巻目までの本があつた。ひとことおりの値段交渉をすませ、その場で買い求めたの言うまでもない。

後日、最初に訪れた古書店に行き、紹介してもらつた店で七巻目までを手に入れたと報告した。主人の目が丸くなった。本当にもっているとは思っていなかったらしい。いくらで買ったのかと探るような目でたずねてくるので、実際に買い求めた値段よりも少し安く言っておいた。主人は信じられないというよつな表情のまま、店から送り出してくれた。

苦労して手に入れたガラン訳アラビアンナイト七巻は、「アラビアンナイト大博覧会」で展示された。現在、民博には世界に誇るアラビアンナイト・コレクションがあり、世界の研究者に利用されるべく詳細なデータベース化が進められている。